

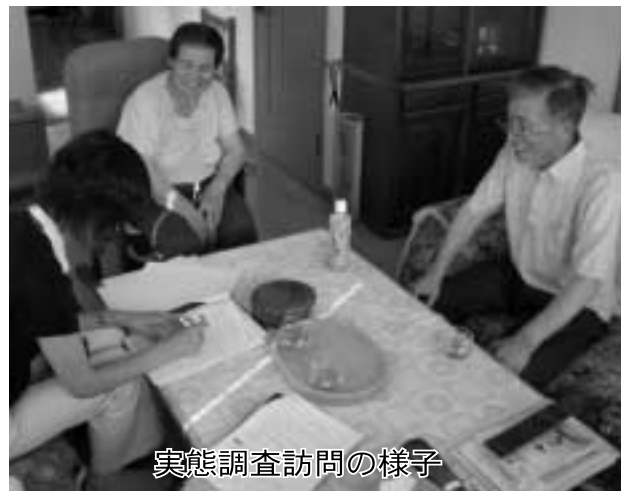
これからの地域の

支えあいを考える

誰もが安心して自分らしく暮らせるあたたかいまちづくり

少子高齢化が進む津別町は、現在町民の3人に1人が65歳以上です（平成24年8月末現在、高齢化率38.5%）。

65歳以上の方の世帯状況は「同居世帯約26%」「夫婦世帯約36%」「独居38%」と夫婦世帯と独り暮らしの方を合わせると、ほぼ8割になります。



実態調査訪問の様子

特に、夫婦二人暮らしや独り暮らしの方からは日頃次のような声があがってきています。

- ①外出が困る（車の運転をやめたから。バスへの乗り降りやバス停まで歩くのが大変）
- ②買物が困る（近くに店が無い、歩くのが大変）
- ③ゴミ出し（分別がよくわからない。ゴミステーションまで行くのが大変）
- ④掃除や洗濯が大変になってきた
- ⑤近くに病院がない

⑥ちょっとしたことを頼む人・相談相手がいない

⑦行き来するお友達が減って寂しい

⑧いつまでこの家に居れるのか不安がある、など

これらの声を支援するために、介護保険などの公的サービスがありますが、それだけでは十分対応できないこともあります。そこで、これからは町の公的サービスなどを再検討することや、地域住民のみなさんの協力が大切になっています。

年齢が高くなるにしたがって、何かしらの不安を感じるもの。

たとえ高齢化率が高くても、みんなが元気で暮らせる町であるために、年をとっても住み慣れた地域で暮らしていくためにはどうしたらよいのでしょうか。

もっと住民みなさんの声をひろい、それを基に考えていきたいと考えています。

今、モデル地区として「柏町・相生地区」の65歳以上の方々にご協力いただき実態調査を実施しています。



住民参加型高齢者生活支援等推進事業
事前検討会議の様子

地域づくり講演会

～年をとっても住み慣れた津別町地域で暮らしたい～

津別町の状況を踏まえ、住民自らが暮らす地域の問題や課題を発見出来る「力」や「支え合い」をより一層つけることにより、誰もが安心して自分らしく暮らせるあたたかいまちづくり、豊かな地域づくりを推進していくために本講演会を開催します。



日時

10月16日（火）午後1時30分より

会場

町民会館（1階大会議室）

講師

北星学園大学 社会福祉学部教授
杉岡 直人 氏 すぎおか なおと

参加費
無料



1949年、北海道恵庭市生まれ。
北海道大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了。
北海道大学助手、北星学園大学専任講師、同助教授をへて現職。
社会調査士資格認定機構評議員、北海道地域福祉学会会長などを歴任。

専門は地域福祉学、家族社会学、農村社会学。その専門を活かして、北海道社会福祉協議会評議員、北海道ハンセン病問題検討会座長をつとめる他、社会貢献活動として、数多くのNPO団体の活動に関わっており、北海道NPOバンクの理事長を務める。

問い合わせ先

津別町地域包括支援センター（役場内）
☎76 - 2158